

TOUEI HOUSING CORPORATION BUSINESS REPORT

第52期事業報告書

平成14年2月1日から平成15年1月31日まで

株主メモ

決算期	毎年1月31日
定時株主総会	毎決算期の翌日から3ヵ月以内
配当金	利益配当金受領株主確定日 1月31日 中間配当金受領株主確定日 7月31日
株式名義書換	
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 03(5683)5111
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
公告掲載紙	日本経済新聞



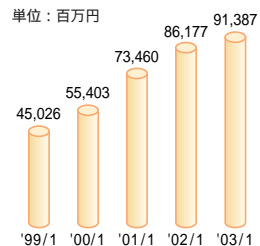
www.touei.co.jp

東京都西東京市芝久保町四丁目26番3号
Tel. 0424-63-8845 (総務部株式課直通)

*Challenge
&
Change*

お客様第一主義を徹底し、提案型総合住宅企業を目指します。

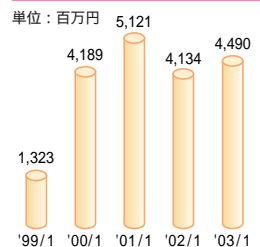
営業収益



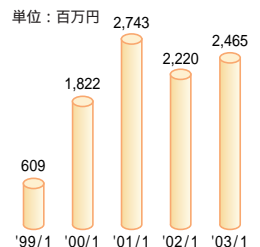
営業利益



経常利益



当期純利益



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに第52期事業報告書をお届けするに際しまして、一言ご挨拶申し上げます。

おかげさまで、当社は東京証券取引所市場第一部上場から無事一周年を迎えるに至り、当事業年度は昨今の厳しい経済情勢の中、営業収益913億87百万円、営業利益52億10百万円、経常利益44億90百万円、当期純利益24億65百万円という成果を挙げる事ができました。

今後におきましても、事業改革の取り組みに不可欠な毎月・四半期毎の経営の安定を図りながら、20%以上の成長の達成を目標に社員一同、チャレンジ&チェンジ精神をもって取り組む所存です。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



代表取締役社長 佐々野 俊彦

Top Interview

チャレンジ&チェンジ精神を發揮し、提案型企業へと社内改革を進めています。

変革意識こそが総合住宅企業への最大の原動力

—— 昨年1月の東証一部上場から1年。現在の社内の状況はいかがですか？

おかげさまで事業部制も浸透し、社員一人ひとりにも一部上場企業社員としてのスキルやモラルが備わってきたように感じます。とくに、上から指示されるのではなく、各課内や部内でそれぞれの業務の取り組みについての活発なディスカッションが行われ、前向きな意見が出るようになってきたことは嬉しいことです。新しいことに挑戦し、改革すべき点は古

い慣習にとらわれず、積極的に改革しようという意識が社員に芽生えてきたことは、東証一部上場の最大の成果だったと感じております。

—— “チャレンジ&チェンジ”精神が東栄住宅の新しい社風となりつつあるのですね。

お客様のニーズが非常に多様化してきていますので、住宅メーカーももっと前向きになって、いろいろな提案をしていくべきだと考えます。新しい可能性に積極的にチャレンジしていく姿勢こそが、総合住宅企業への最大の原動力になるのではないのでしょうか。

その意味で、昨年組織再編成で満足することなく、改善すべき点は大いに改善していこうと考えています。

—— 年初に子会社を設立されたのも、その一環ということでしょうか。

従来までは、当社組織内の検査管理統括課が販売後の住宅の自主定期検査及びアフターサービス業務を行っていたのですが、これらの業務は、今後大きな市場へとふくらむリフォーム需要の取り込みの場として非常に期待が持てるのです。

より誠実に、迅速かつ正確なアフターサービスを行うことでお客様のニーズを掴み、そこから派生する事業へと結びつけることのできる専属部署を確立するため、本年1月にアフターサービス業務を中心とした子会社「ティ・ジェイ ホーム サービス 株式会社」を設立いたしました。当社では、これまでに1万5千戸以上の戸建分譲住宅を市場に供給してきました過程において、ノウハウの蓄積を含めた先行優位を十分に確保していますので、収益性の高いリフォーム事業へとつなげていけるものと確信しています。

柔軟な発想が新しい飛躍へと結びつく

—— 総合住宅企業への転換が着々と進行中です。

昨年、私は「建売」から「売建」への発想転換をアピールいたしました。まず土地を取得して、それから住宅を建てたいと思われるお客様もいらっしゃいます。実際に今期は160区画程、土地のみの販売をさせていただきました。

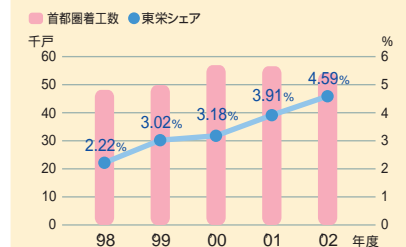
私共は「建売」という規格品だけに特化するつもりはありません。やはり住宅はお客様のためにあるわけですから、お客様が望まれているものが既成の枠の中に存在しなければ、当然、新しい枠を作って対応すべきだと考えています。

ティ・ジェイ ホーム サービス 株式会社



当社ではリフォーム事業への発展を視野に、定期検査業務、アフターサービス業務を中心とした子会社を設立しました。詳しくは、TOPICSのページ(P.7)を御覧ください。

首都圏の戸建分譲マーケットと当社シェアの推移



Top Interview

その意味で、土地のみの販売や注文住宅への対応など、より多くの商品バリエーションを持つことが私共の課題であり、そこに“チャレンジ&チェンジ”精神が問われてくるのだと思います。

—— **これからは発想の転換がビジネスチャンスを生むわけですね。**

例えば、マンション分譲事業のこれからについては、ファミリー向けの分譲マンションという枠にとらわれなくてもいいと思っています。ファミリー層から単身者層やシルバー層など新しいターゲットに目を転じれば、そこに新しい企画提案が生まれてくると考えます。とくに市場が低迷し、優劣がはっきりとしてきている状況下では、どれだけ他社と比較して差別化できる提案を提示できるかが大きな課題になってきます。

私は、ある意味、マンション分譲事業のセクションについては、社内の全く異色の存在で構わないと思います。むしろ、マンションという概念も捨て去って、他の事業部や支店が試みることのできない新しい企画提案にチャレンジしてくれることに期待しています。

お客様の視線で暮らしを見つめる安定感のある総合住宅企業を志向します。

住まいが一番知っているのはお客様です。

—— **グッドハウスコンペ2002ではお客様の生の声を聞かれていましたが、**

グッドハウスコンペについては、6ページでご紹介しております。

毎年、住宅品質の向上を目的に社内コンペ、グッドハウスコンペを開催していますが、今回は新しいチャレンジのひとつとして、お客様にアンケートの形で「住宅に対して最も重点を置くもの」をお伺いし、その上位項目を今回の審査基準といたしました。その結果、お客様から『建物の採光・日当たりの良い住宅』を一番に望まれるという声を頂戴したわけですが、私共も大変にいい勉強をさせていただきました。今回のお客様のご意見には積極的に耳を傾け、今後の企画に取り入れていきたいと考えております。

お客様の生の声は、総合住宅企業を志向する当社にとって、非常に貴重な指針となっています。今後はこのような形で、お客様の声を聞かせていただく機会を増やしていきたいと考えております。

—— **シーズ志向よりもニーズ志向を重視するわけですね。**

当社は創業以来、顧客第一主義を基本理念としていますが、やはり、住まいのことを一番知っているのは、そこに実際に暮らしているお客様です。私共は、素直に教え

ていただくという姿勢で臨みたいと考えております。

例えば、私共の建てた家に住まわれていないお客様にも、当社の商品や企画を見てもらうべきだと考えます。とくに主婦層の視線を、大切にしたいですね。具体的には、各エリア毎に外部モニターを募集して、アンケート形式での審査を実施しております。

また、それと並行して、新しいテレビコマーシャルも展開します。今まではどちらかと言えばイメージ性の強いものでしたが、今回は好感度の高いタレントを起用して、よりインパクトのあるメッセージをこの春からお茶の間にお届けしております。

—— **よりお客様に身近な東栄住宅を目指すわけですね。**

お客様にとって住宅の購入は、大きな買物であるため、やはり安心して購入したいと思われているはず。お客様とのより親密なコミュニケーションを確保しながら、当社は地域密着型の店舗展開や販売体制を更に強化し、信頼の家づくりを進めていきたいと考えております。現在、2006年度を目処に40営業拠点体制の計画も着々と進行しています。

果敢な前進を、安定した経営で支えます。

—— **来期の目標をお聞かせください。**

日本経済のおかれている現況を考えると、引き続き厳しい市場環境が続くものと予想されます。そうしたなかで来期の見通しは、営業収益1,100億円、経常利益63億円、当期純利益32億円としました。不動産流通課税の軽減、住宅取得資金の生前贈与枠拡大等の制度面には大いに期待していますが、自助努力により安定した収益基盤を確立していきたいと考えております。

経営課題としては月次毎の安定化ですね。ここ数年、月次ベースでの収益をみると好調時と不調時の差が大きく、バランスが悪いものになっています。とくに昨年は、年初からの着工が過少だったこともあり、下期に負荷がかかる結果となってしまいました。事業改革の取り組みに経営の安定化は不可欠ですから、月次・四半期毎の業績を安定させていくことが最大の課題と考えております。

—— **来期は更に飛躍の年となりそうですね。**

着工ベースでは、3,000戸の着工を見込んでいます。月毎の収益を安定させるという観点に立てば、毎月250戸の着工を達成しなければならないということになりますね。

私は、実績を示すことが、株主の皆様に対する最大のメッセージになると考えます。着実な成長を確保するべく、果敢な“チャレンジ&チェンジ”精神をモットーに、社員一同日々励んでまいります。どうぞご期待ください。

新しいテレビコマーシャルのご紹介



本年4月から当社の新しいテレビコマーシャルを以下の時間帯で放映しています。(提供番組)

フジテレビ(関東地区のみ)
FNNスーパーニュース
(毎週土曜日 17:30~18:00)
こたえてちょーだい!
(毎週月曜日 9:55~11:25)

タレントには、ファミリー層に好感度の高い見栄晴さんと市田ひろみさんを起用し、音楽は、SMAPへの楽曲提供でも知られる楠瀬誠志郎さんが担当しています。



戸建住宅分譲事業



自然と同調するゆとり空間
【国立】

緑豊かな郊外生活が満喫できる国立の地に、南面に面したゆとりのバルコニーをもつ全16棟を開発。大型のリビングルームとバルコニー、カースペース2台付というゆとりの設計が、家族の団樂を育みます。



おだやかな光に包まれて
【さいたま大久保】

都心へのアクセス30分圏内に、ゆとりある多面採光設計を実現。暮らしをおだやかに包む光とともに、住まう人に憩いとやすらぎの空間を提供します。



ブルームィングガーデン吉祥寺東町

全棟35坪以上、カースペース2台付。機能性と造形美とが織り成す瀟洒なフォルムが、武蔵野の地をゴージャスに彩ります。

全棟35坪以上、カースペース2台付という贅沢な設計を実現したのが、「ブルームィングガーデン吉祥寺東町」です。「建設住宅性能評価書」の交付はもちろんのこと、床暖房システムの採用や断熱・防音性に優れたペアガラスの採用など、高い機能性と意匠性とを融合。3路線利用可能な吉祥寺から徒歩圏内というロケーション。緑豊かな武蔵野の地に佇む全棟敷地35坪以上の瀟洒な趣の全10棟は、まさに「永住邸」と呼ぶにふさわしい物件です。



お客様の声を重視しました。
グッドハウスコンペ2002

当社では毎年、住宅の品質及び意匠の向上を目的に各事業部が物件をエントリーし、互いに評価しあう「グッドハウスコンペ」を開催しています。今期は売り出し現地にお越しいただいた、一般ユーザーの方々にアンケートという形でご参加いただき、「住宅に対して最も重点を置くもの」をお答えいただきました。今後も様々なかたちで幅広くご意見を伺う機会を設けながら、皆様とともに、理想の家づくりを追い求めていきます。

住宅に対してのお客様の声

- 1位 建物の採光・日当たりの良い住宅
- 2位 低価格の住宅
- 3位 耐久性の高い住宅
- 4位 設備の充実した住宅
- 5位 2台駐車可能な住宅



マンション分譲事業



エスト・グランディール杉田

抜群の採光を誇る、サウスファサード。
心と体を癒す、眺望豊かなオープンバスルーム。
極上のリラクゼーション空間が誕生しました。

丘の上に佇む、全戸南向きの眺望豊かなフォルム「エスト・グランディール杉田」は、抜群の採光性を誇ります。とくに、南側に配置されたスチームサウナ付のオープンバスルームからの眺望は、至極の景観。他にも温水式床暖房やトランクルームなど、高品質な設備・仕様・工法を積極採用。都心・マリンスポット共に1時間圏内に位置する3路線利用可能なナイス・フットワークは、今までにない贅沢なライフステージを提供します。



TOUEI TOPICS

リフォーム事業への発展性を視野に、子会社「ティ・ジェイ ホーム サービス 株式会社」を設立しました。

当社では住宅引渡し後、独自に3カ月、1年、2年の自主定期検査を実施してまいりましたが、更なる住宅供給拡大に向けてより一層のアフターサービス業務の充実を図るため、本年1月10日に「ティ・ジェイ ホーム サービス 株式会社」を設立するに至りました。同子会社は、将来的には市場性の高いリフォーム事業への発展も視野に入れたもので、創業以来15,000棟以上もの戸建分譲住宅を供給してきたノウハウを最大限に生かしたサービスを提供していきます。

商号	ティ・ジェイ ホーム サービス 株式会社
所在地	〒187-0002 東京都小平市花小金井三丁目1番1号
代表者名	代表取締役社長 佐々野 俊彦
設立年月日	平成15年1月10日
資本金	5,000万円
事業内容	住宅の定期検査業務、アフターサービス業務およびリフォーム事業

ティ・ジェイ ホーム サービス株式会社



当社開発ベンチレーション・ウォール・パネル工法が工期の短縮と効率化を実現します。

当社開発のベンチレーション・ウォール・パネル工法が、昨年10月に(財)日本住宅・木材技術センターより「木材住宅合理化システム」の認定を取得しました。

同工法は、構造材の標準化及び断熱一体型(通気層付)壁パネルの採用により、施工の省力化と工期の短縮(従来の75日から60日に短縮)が図れるほか、構造用面材による根太の省略及び先行床張り工法によって作業の効率と安全性を向上させ、結露防止効果により構造躯体の劣化を軽減させるものとして期待されています。



工場生産した「通気耐力パネル」を施工

工場プレカットによる横架材の通気欠き込み

新築戸建住宅専門検索サイトがオープン。速報性と機能性で、物件探しをサポートします。

インターネットの利用率上昇を踏まえ、新築戸建住宅「ブルーミングガーデン」シリーズの物件検索専門サイト「e-blooming.com」を開設いたしました。契約などの物件情報に変更があってもリアルタイムに更新(原則30分営業時間内)する速報性と、対象物件・エリア・価格帯の3つのアングルからの、絞り込み検索が可能です。

更に、携帯用サイトもオープン。物件検索機能はもちろん、現地販売会の予定を確認でき、いつでもどこでも当社の販売物件の情報が手に入るようになりました。

e-blooming.com



ブルーミングガーデン専門サイト「e-blooming.com」www.e-blooming.com
携帯用サイト www.e-blooming.com/i/

業界トップレベルに達する高い品質と性能。住宅性能表示制度が証明する、信頼の家づくり。

住宅性能表示制度とは、「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に基づき、国が定める共通基準によって住まいの性能を、等級や数値で第三者である指定評価機関が評価、明示する任意の制度です。お客様第一主義を理念に掲げる当社では、自社物件の性能を積極的に公開。2002年度の実績は設計評価取得2,100戸、建設評価取得は1,295戸と木造軸組住宅会社ではトップレベルに達しています。今後もお客様から信頼される家づくりを実践していきます。



決算概要

営業の概況

当事業年度におけるわが国経済は、米国経済の回復基調により、輸出や生産に持ち直しの動きが見られ、政府が景気底入れ宣言を発表するなど、景気好転への期待感が高まりましたが、個人消費や企業の設備投資といった国内需要にまで波及することとはなく、国内景気は総じて低調なまま推移いたしました。

当不動産業界におきましては、引き続き、減税措置やローン金利の低下等の好材料はありましたが、長引く景気低迷により、リストラや企業倒産が急速に増加しており、雇用不安による消費の意識が冷え込むなど、依然として厳しい状況となりました。

このような事業環境のもと、当社は、昨年2月より経営組織の改革を行い、当社の特色であります自社一貫体制（土地仕入、商品企画、設計、施工、販売、アフターサービス）の強みを生かし、戸建分譲住宅におきましては、「土地分譲」「建築条件付売地」の販売を実施するなど、市場ニーズに迅速に対応できる体制を整えることに注力いたしました。

また、品質面では、前事業年度同様「住宅性能表示制度」に

対応した物件の促進に努め、当事業年度は約85%の分譲住宅に対応し、商品企画の充実と外注、材料の見直し等の建物原価管理に注力し、更なる差別化を図り、良質廉価な商品への取り組みに尽力いたしました。

他方営業面におきましては、不動産分譲事業のより一層の土地仕入及び販売体制の強化を図るため、新たに相模原、調布、久米川、海老名、成増、浦安支店を開設いたしました。

また、土地仕入におきましては、一部「土地分譲」にて、引渡しを開始されておりますが、主に翌事業年度以降の営業収益に寄与する大型現場（谷戸（東京都西東京市）宮山（神奈川県高座郡寒川町）多摩川（東京都調布市））等を含めた分譲用地も順調に確保することができました。

この結果、当事業年度の営業収益は913億87百万円（前年同期比6.0%増）、経常利益は44億90百万円（前年同期比8.6%増）、当期純利益は24億65百万円（前年同期比11.0%増）となりました。

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前期 2001.2.1~2002.1.31	当期 2002.2.1~2003.1.31
営業収益	86,177	91,387
営業原価	74,222	77,853
営業総利益	11,955	13,534
販売費及び一般管理費	7,029	8,323
営業利益	4,925	5,210
営業外収益	38	45
営業外費用	829	766
経常利益	4,134	4,490
特別損失	150	—
税引前当期純利益	3,984	4,490
法人税、住民税及び事業税	1,805	2,055
法人税等調整額	41	31
当期純利益	2,220	2,465
前期繰越利益	2,866	2,842
中間配当額	340	302
中間配当に伴う利益準備金積立額	34	—
当期末処分利益	4,713	5,005

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表(要旨)

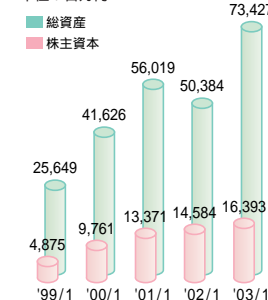
(単位:百万円)

	前期 2002.1.31現在	当期 2003.1.31現在	前期 2002.1.31現在	当期 2003.1.31現在
資産の部				
流動資産	43,762	66,675		
現金及び預金	9,191	8,756		
売掛金	246	—		
棚卸資産	32,568	56,176		
その他	1,755	1,741		
固定資産	6,622	6,752		
有形固定資産	5,880	5,894		
建物	1,755	1,811		
土地	4,469	4,483		
その他	169	206		
減価償却累計額	513	607		
無形固定資産	27	66		
投資その他の資産	713	791		
その他	765	830		
貸倒引当金	51	39		
資産合計	50,384	73,427		
負債の部				
流動負債	33,846	49,603		
支払手形	4,716	5,667		
営業未払金	4,514	8,119		
短期借入金	15,343	30,950		
1年内返済予定長期借入金	6,969	2,210		
未払法人税等	1,052	1,173		
賞与引当金	52	64		
その他	1,197	1,415		
固定負債	1,952	7,430		
長期借入金	1,357	6,906		
退職給付引当金	173	188		
役員退職引当金	422	335		
負債合計	35,799	57,033		
資本の部				
資本金	2,208	2,208		
資本準備金	2,503	2,503		
利益準備金	179	179		
その他の剰余金	9,718	11,509		
その他有価証券評価差額金	24	6		
資本合計	14,584	16,393		
負債・資本合計	50,384	73,427		

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

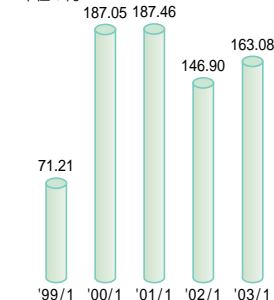
総資産 / 株主資本

単位:百万円



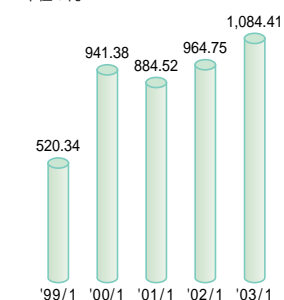
1株当たり当期純利益

単位:円



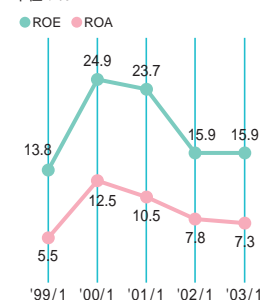
1株当たり株主資本

単位:円



ROE / ROA

単位:%



(注)ROE(株主資本利益率)=当期純利益÷株主資本(期中平均)
ROA(総資本利益率)=経常利益÷総資産(期中平均)

キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	(単位:百万円)	
	前期 2001.2.1~2002.1.31	当期 2002.2.1~2003.1.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,638	15,982
投資活動によるキャッシュ・フロー	79	1,165
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,699	15,753
現金及び現金同等物の増加額	1,859	937
現金及び現金同等物期首残高	5,959	7,819
現金及び現金同等物期末残高	7,819	8,756

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

	(単位:千円)	
	前期	当期
当期末処分利益	4,713,397	5,005,396
任意積立金取崩額		
特別償却準備金取崩額	771	795
合計	4,714,168	5,006,192
利益処分額		
配当金	340,142	302,348
役員賞与金	31,500	50,000
(うち監査役賞与金)	(3,500)	(4,490)
特別償却準備金	169	—
別途積立金	1,500,000	—
次期繰越利益	2,842,356	4,653,843

(注)1.記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。
2.当事業年度は平成14年10月15日に中間配当金302,348千円(1株につき20円)を実施いたしました。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、イラク・北朝鮮情勢等による世界経済への影響も懸念されており、国内景気の先行きは、極めて不透明な状況と予想されます。

不動産業界におきましては、新たな減税政策等に期待するところではありますが、長期にわたるデフレ経済により、購買意欲は低下しており、価格競争は避けられないものと予想されます。

このような経営環境の中、当社といたしましては、創業以来15,000棟以上の販売実績で得られた信頼性をもとに競争力のある商品企画と地域に密着した販売戦略を展開してまいります。

商品面では、新たな工法として、壁体内通気を実現し、構造躯体の劣化軽減を可能とした「ベンチレーション・ウォール・パネル工法」の導入を図り、他社との差別化に努めてまいります。

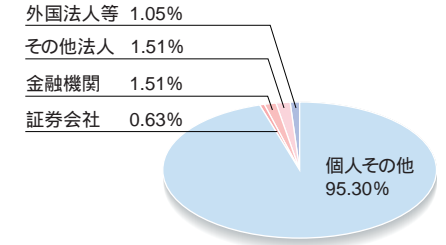
営業面では、新たな店舗として、今春より春日部支店、蒲田支店、八千代支店、たまプラーザ支店を開設し、土地仕入及び販売体制の強化を図ってまいります。また、当事業年度に開設した店舗におきましても、順調に土地を仕入れており翌事業年度以降の収益に大きく貢献する予定であります。

以上により、第53期の見通しにつきましては、営業収益1,100億円(前年同期比20.4%増)、経常利益63億円(前年同期比40.3%増)、当期純利益32億円(前年同期比29.8%増)を予定しております。

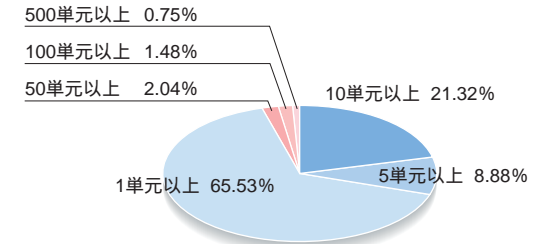
会社が発行する株式の総数37,478,400株
発行済株式の総数15,117,440株
1単元の株式の数100株
株主数3,040名
大株主

株主名	持株数	持株比率
有限会社バンブーフィールド	3,800,000株	25.13%
佐々野 俊彦	2,522,136	16.68
有限会社一商事	2,410,464	15.94
バンクオブバミューダガンジーズ スペシャルアカウントエクスクルーシブ ベネフィットクライアランス	569,500	3.76
みずほキャピタル株式会社	442,900	2.92
モルガンスタンレーアランド カンパニーインク	409,300	2.70
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	295,400	1.95
飯田 一男	217,040	1.43
東栄住宅取引先持株会	176,700	1.16
相馬 茂俊	143,200	0.94

株主数の所有者別分布状況



株主数の所有株数別分布状況



配当金のご案内

40円配当

当事業年度の配当金は、1株につき中間配当金20円、利益配当金20円を合わせて年間配当金40円とさせていただきます。今後も株主重視の視点から、配当性向20%を目処に、株主の皆様への安定的な利益還元を図る方針であります。

株主優待のご案内

株主の皆様のご愛顧に応え、株主優待制度を実施しております。毎年1月末日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主を対象に、100~999株保有の株主に対しては2,000円分、1,000株以上保有の株主に対しては3,000円分の全国百貨店共通商品券を贈呈させていただきます。今後とも末永くご支援の程、お願い申し上げます。 **同封の商品券をご確認ください。**

会社概要 (平成15年1月31日現在)

社名 株式会社東栄住宅
 設立 昭和26年3月10日
 資本金 22億800万円
 代表者 代表取締役社長 佐々野俊彦
 本社所在地 〒188-0014 東京都西東京市芝久保町四丁目26番3号
 登録 宅地建物取引業者登録 国土交通大臣免許(5)第3564号
 ・建設業者登録 国土交通大臣許可(特-11)第18352号
 ・(財)住宅保証機構 登録番号10021599
 ・ISO9001 JISZ9901:1998 登録番号 JSAQ1322



本社

事業内容
 ・戸建住宅分譲事業
 ・マンション分譲事業
 ・注文住宅事業
 ・リフォーム事業

子会社 ティ・ジェイ ホーム サービス 株式会社
 〒187-0002
 東京都小平市花小金井三丁目1番1号
 事業内容 住宅の定期検査業務、アフターサービス業務及びリフォーム事業

主要取引銀行
 ・みずほ銀行・商工組合中央金庫
 ・東京三菱銀行・千葉銀行・UFJ銀行
 ・三井住友銀行・あおぞら銀行

役員
 代表取締役社長 佐々野 俊彦
 専務取締役 相馬 茂俊
 常務取締役 三浦 春治
 取締役 高田 和幸
 取締役 亀田 元司
 取締役 柴田 英夫
 取締役 武井 澄夫
 常勤監査役 北川 雅章
 監査役 鈴木 隆
 監査役 藤田 浩司

ネットワーク (平成15年1月31日現在)



IRカレンダー/アンケート報告

IRカレンダー (第52期実績)



当社では、年間を通じ左記のようなIR活動を主に展開しております。
 ホームページ上のIRサイトでは財務情報や四半期毎の業績の開示をし、また、「ニュースレター」として最新の企業情報やニュース等を配信しております。

当社ホームページ www.touei.co.jp

トップページより、IR情報サイトへお入り下さい。



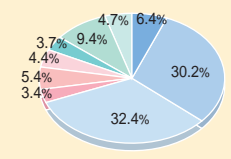
当社ホームページ (IR情報)



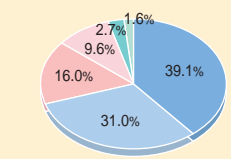
ニュースレター

アンケートへのご協力、ありがとうございました。 第52期中間事業報告書アンケート集計結果のご報告

第52期中間事業報告書アンケート調査に際しましては、ご回答以外にも温かいメッセージを頂戴いたしました。厚く御礼申し上げますとともに、皆様からの貴重なご意見は改善材料として更なる事業の発展に反映していく所存でございます。第52期中間事業報告書のアンケート集計結果を一部ご報告させていただきます。



当社株式を買い付けされた理由は何でしょうか



当社株式の保有期間はどのくらいでしょうか